

職業能力開発
の
現場から

心・技・体 バランスのとれた 技能者の養成を目指して



住友林業建築技術専門学校

開 校 ● 1988 年 4 月
所 在 地 ● 千葉県四街道市鹿渡 1144
職業訓練認定校 ● 1988 年 3 月千葉県知事より職業能力開発促進法による職業訓練認定
運 営 主 体 ● 住友林業建築技術専門学校共同運営組合（住友林業㈱、住友林業ホームエンジニアリング㈱及び住友林業ホームテック㈱で構成）

○技能者を育てるのが急務だった

住友林業建築技術専門学校は、現代の木造住宅建築を担う新しいタイプの建築技能者を養成するために設立された。開校の経緯を同学校長の鈴木誠司さんにお伺いした。

「開校した1988年は、日本はバブル経済で住宅建設の需要も多く、住友林業が住宅建築を請け負ううえで職人が少なくなっていました。当時の大工が80万人くらいで、そのうち約10%が60歳以上。そこで、若い技能者を育てなければなりません。今は50万人を割っているようで、高齢者も20%くらいです。これからの家づくりを担う新しい力が必要ですよ」

○何よりもきちんとした態度、生活習慣が大事

同校には、1年間の普通訓練と短期訓練の二つの訓練コースがある。普通訓練は、住友林業ホームエンジニアリング㈱の新入社員が対象で、短期訓練は住友林業やその子会社、一般の工務店の監督などを対象に1〜2週間訓練する。普通訓練生は全員寮生活を送る。

「新入社員は主に高校や高専を卒業した18歳くらいの者なので、まずは心技体の心の部分を教えます。例えば規則を守る、挨拶をする、服装などは厳しく教えています。お客様に会った時の第一印象はとても大事です。寮の掃除も訓練生が行い、廊下などはごみ一つ落ちていません。来校される方はみなさん、寮がきれいでびっくりされますね」（鈴木校長）



訓練生の1日のスケジュールは、6時起床、6時30分から体力向上のためのジョギング、その後朝食、掃除、朝礼などをして、8時30分から16時40分まで訓練を行う（途中昼休みをはさむ）。16時40分から17時は訓練日誌の記入、17時から18時は補習訓練、その後夕食、自由時間などとなっている。夏休みやゴールデンウィークなどは長く休暇を取らせて帰省させる。ただし遊んでばかりもいられない。訓練部長の池田正徳さんは、「地元に戻って古い建物などを観察してのレポートや、技能五輪の課題の図面を1日1枚書かせるといった課題を出します」と話す。

また、同校は技能五輪へ積極的に出場している。

「13期生（平成12年入校）から全員が、技能五輪の地方予選に出場して、本大会を目指すようになりました。五輪を目指すことで訓練のモチベーションを保つことができます」（池田課長）

○独立する夢がある

だからこその腕を磨く

訓練は座学、基本的な実習のほか、実物大のモデル棟の建築作業などがある。また、顧客の了解を得て実際の注文住宅を使った実習や、1班7〜8名に分かれて実物の10分の1サイズの家屋の模型製作もある。模型を作ることによって建物の構造の復習になる。班の中で社長、副社長、生産、技術などの役割を決めて模型を作り、優秀なチームには大工道具の贈呈などを行っている。

同校卒業後は、住友林業ホームエンジニアリング㈱の社員技能者として独立を目指す。

「独立制度を始めたのは10年くらい前です。学校を卒業してそれぞれの配属先で7年経験を積んだ後、住友林業ホームエンジニアリングと工事専属契約を結び、独立します。ここ数年は途中で学校を辞める者が少なくなってきました。訓練生は頑張れば独立できるんだとの思いがあり、将来の方向性が見えつつあるので気持ちがあがっているのだと思います。若い力に大きな期待を寄せています」（鈴木校長）

